

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市太白障害者福祉センター
2 指定管理者	社会福祉法人仙台市障害者福祉協会
3 指定期間	令和4年4月1～令和9年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 7,052人(前年度比 90.4%) 令和5年度 7,794人(前年度比 113.4%) 令和4年度 6,873人(前年度比 123.5%) 《事業》 ○貸館事業:障害者の自主的な活動及び障害者の福祉に関する市民の自発的活動のための施設の提供その他の援助 ○障害者の福祉に関する講習会の開催その他福祉に関する啓発活動 ○障害者福祉センターの運営管理
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 31,617千円 (29,731千円) ・ その他市が負担した費用 18,160千円 (385千円) 《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 令和6年12月にアンケートを実施。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	協定書及び仕様書に則った管理運営がなされている。センターの事業推進については、館内法人との打合せを行い、条例や運営要領、基本方針等の共有理解を図っている。 また、障害当事者と協力しながら、近隣小学校に出前授業を開催する等、地域の障害者福祉の中心的な役割を果たしている。	27/27
II 施設の運営管理体制	個人情報や情報セキュリティ、事故防止対策への取組みなど、研修やマニュアル作成等により職員への周知を図っており、適切な運営が行われている。 また、災害発生時に備え、職員の行動マニュアル策定や、避難訓練を実施しており、近隣施設や地域との連携にも努めている。	25/25
III 施設・設備の維持管理	清掃委託業者のみならず、職員も保守点検チェックシートに基づき、定期的に館内を巡回し、利用者が安全かつ快適に利用できる環境を維持する取組みが行われている。 また、仙台市環境行動計画を基に節電、節水、ごみの減量等に取り組むなど環境に配慮した取り組みを進めている。	24/24
IV サービスの質の向上	全職員を対象にしたマナーアップに関する研修を開催し、利用者に対する接客マナーの向上に努めている。利用者アンケートでも全ての項目において平均4点(満足)以上と高い評価を得ており、アンケートの内容に対しては対応策を含めた回答を利用者へ向け掲示している。	28/28
V 施設固有の基準	日常的に敷地内の点字ブロックや通路等を点検し、利用者にとって利用しやすくなるよう、施設の維持管理を行っている。 講座等の募集時、町内会の回覧板や市政だよりを含め、広く周知している。また講習会や啓発活動を行った後は、毎回アンケートを実施し、障害の有無に関わらず幅広く障害福祉の普及に向けて企画できるよう、ニーズの把握に努めている。	9/9

三 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人仙台市障害者福祉協会）による自己評価》
利用者本位で実現性の高い事業計画では、余暇活動・障害者スポーツ6回と防犯教室1回の他、障害者週間の利用者作品展示、コンサート及び創作教室を開催して延べ358名の参加者があり、余暇活動の充実や障害理解の促進に努めた。今年度新たにコンサートのオンライン配信を行い31名の視聴があり、来場困難な方への参加の機会の提供につながった。 地域や関係団体・機関との連携した取組みでは太白区民祭りに出展し、延べ378名の来場者に障害理解に関する啓発活動を行った。また、高齢者のサロン（郡山地域包括支援センター管轄）や当事者団体からの依頼により、専門職が地域に出向く出前講座による運動教室を実施（延べ46名参加）し、地域リハビリテーションの活性化に努めた。 施設の管理運営においては、関係機関と共催のもと、当事者9団体やボランティアの協力を得てセンター祭りを土曜日に開催し、センター利用者や児童館の児童の参加を促し、来場者延べ233名のボッチャ大会や手話歌披露等を通じた交流により地域の障害理解の促進につながった。中学生の職場体験活動（5校14名）の受入れの他、今年度新たにセンター貸館団体や仙台市障害者相談員に講師を依頼して小学生の福祉学習や高校生の探求学習を実施（延べ147名参加）し、若者の障害理解の促進に努めた。 地域防災力の強化については、上級救命講習、仙台市シェイクアウト訓練の参加に加え、東日本大震災での福祉避難所の運営経験と教訓を活かして洪水発生を想定した福祉避難所開設訓練や人工呼吸器装着児者の電源確保訓練を行い、災害時の避難者受入体制の強化に努めた。太白区総合防災訓練に参加し、町内会、民生児童委員、教員に対して福祉避難所の周知に努めた。 次年度においても、障害者福祉の地域拠点機能を担い、福祉避難所の運営など災害時の障害者支援の拠点として役割りも果たしていきたい。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
本センターの取組みは、利用者本位で実現性の高い事業計画のもと、多方面にわたる活動を展開し、地域福祉拠点としての役割を十分に果たしていると評価できる。まず、余暇活動・障害者スポーツや防犯教室、障害者週間における作品展示やコンサート、創作教室などを開催するなど、障害のある方々の余暇充実と社会参加促進につながっている。特に今年度新たに導入したコンサートのオンライン配信は、来場が難しい方に参加機会を提供する有効な取組みであり、アクセシビリティの拡大という点で高く評価できる。 地域連携の面では、太白区民祭りでの啓発活動をはじめ、高齢者サロンや当事者団体の要請に応じて専門職が運動教室を出前講座として実施するなど、地域のリハビリテーション活性化に貢献している。さらに、センター祭りを当事者団体やボランティアとの共催で開催し、ボッチャ大会や手話歌披露を通じて延べ233名の交流を実現したことは、地域住民と障害当事者の相互理解促進に大きな効果をもたらしている。また、若年層への障害理解の促進にも力を注ぎ、中学生の職場体験受入れに加え、小学生や高校生を対象とした福祉・探求学習を実施し、センター貸館団体や市障害者相談員を講師に迎える工夫は、地域資源を活かした効果的な取組みとして評価できる。 防災分野においても、上級救命講習やシェイクアウト訓練への参加に加え、福祉避難所開設や人工呼吸器利用者の電源確保を想定した訓練を行い、災害時の受入体制を強化している。さらに太白区総合防災訓練に参加し、町内会や民生委員、教員に対する福祉避難所の周知を進めるなど、地域全体の防災力向上に寄与している点は高く評価できる。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):健康福祉局障害福祉部障害者支援課